

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

○令和6年度 第1回「健笑庵のぎ」運営推進会議

対象事業所名：(有) ケアサポートことぶき「健笑庵のぎ」

サービス種類：地域密着型通所介護事業所

開催日：令和6年5月23日(木) 午後2時30分

開催場所：健笑庵のぎ

出席者：7名 《内訳》

事業所(担当者)	3名	利用者	1名
利用者家族	1名	知見を有する者(欠席)	0名
松江市職員	1名	地域代表者	1名

【議事・議題】

1. 活動状況

1) 利用状況(令和6月4月現在)

①登録者数：42名(うち男性8名、女性34名)

②介護度別利用者数(サービス区分、介護度別の状況)

総合事業通所サービス	該当者	2名	地域密着型通所介護事業	要介護1	19名
	要支援1	5名 (内、緩和型2名)		要介護2	12名
	要支援2	5名 (内、緩和型3名)		要介護3	1名
				要介護4	0名
		要介護5		1名	
制度外(実費)利用者		0名		申請中	0名

③各月利用者数

令和6年 1月	285名	令和6年 2月	328名
令和6年 3月	342名	令和6年 4月	323名

2) 活動報告

①誕生会(誕生日の一番近いご利用日に実施)

②レクリエーション(季節に合わせたものや、要望に応えたもの)

- ・おみくじ引き ・坊主めくり ・スーパーボール玉入れゲーム ・ビンゴゲーム
- ・カレンダー作成 ・節分豆まき ・鬼退治ゲーム ・卵ボール転がしゲーム
- ・ホッケー ・熊退治ゲーム ・雛飾り作成 ・桜花見外出 ・壁画作成
- ・桜のモチーフでデイルーム飾り付け ・音楽レクリエーション ・体操レクリエーション

3) 日曜デイサービス(月1回、日曜日開催)

開催月	活動内容	参加人数
1月	新年会 1班	12名
2月	新年会 2班	9名
3月	そば打ち体験 1班	12名
4月	そば打ち体験 2班	13名

4) 防災訓練及び活動

実施日	訓練および活動の内容	参加者数(職員)
令和6年1月	地震災害について/能登半島地震で起こったこと	13名(3名)
2月	火災について/火災の原因、消火器の使い方	9名(5名)
3月	地震災害について/自宅や施設で被災した時取るべき行動	12名(5名)
4月	火災について/発生・避難する際の行動に対する行動	13名(5名)

5) その他の活動

①畑、花壇作り(年中行事)

②歌唱活動、脳トレドリル、塗り絵、パズル、五目並べ(毎日)

2. 相談および苦情受付状況・事故報告（対象期間：令和6年1月～4月）

1) <相談・苦情事例>

○デイサービス利用日以外の支援に関わって

[状況]

令和6年3月18日13時頃、利用者Aさん（要介護1・週2回利用・脳梗塞・認知機能低下・四点杖歩行・日中独居）の近所の方からが入電。「Aさんという人はここを利用しているか？」と問い合わせあり。「自宅から出て一人でふらつきながら歩こうとしておられたので声をかけると“デイサービスに行こうと思っている”と言われたので、本人が言う道に従ってデイサービスを探すが施設が見つからない。2か所ほど施設を訪ねたが該当せず、本人が言う『ことぶき』という名称を頼りに電話をかけてみた」との事であった。ちなみにこの日は、家族様はお仕事で、日中おひとりで過ごしている。またデイのご利用日ではなかった。

[対応]

本人のところに急行する。対応をして下さった近所の方から再度事情を確認する。「娘さんにも連絡がつかないし、持ち物を探してもデイサービスの名前すら明記されているものがないので困っていた」とのご意見を頂いた。Aさん自身は「何がどうなっているのか分からない、今日はデイ、違ったかいね」など少々混乱気味であったため、とりあえず事業所へお連れする。家族様、担当ケアマネに連絡確認をとった上でデイサービスの臨時利用として滞在していただいた。

[再発防止に向けた対応]

Aさんが近所の方と元々良好なお付き合いをされてきた方で、また近所の方も親切な方で今回は大きな事故に至らなかったと考えている。現在、当通所をご利用の方の中には、Aさんと同様に生活環境や心身の状況から注意が必要な方も十数名は在籍している。そのことから、事業所としての対策が必要と考えた。今回支援いただいた近所の方からもご指摘があったように、当方事業所の連絡先が記載している物が身近になかった事で連絡に時間を要した一因と考え、当事業所の施設名と住所、電話番号、利用曜日を記載したカードを発行し、全利用者・家族間の連絡に使用している連絡帳と一緒に携行してもらえようように本人、家族様に協力依頼を行った。ご利用日以外の利用者に対しての支援策として、利用者宅近隣住民とのコミュニケーションも可能な範囲で検討していくことなど、デイサービスとして出来る事に、今後、積極的に取り組んでいきたいと考えている。

2) <事故事例>

○利用日の確認もれ

[状況]

令和6年1月29日（月）11時頃、利用者Bさん（要介護1・週5回利用・認知症・独歩・独居）の近所の方より「自宅前の駐車場で座ってずっとデイサービスの迎えを待っている様子だ」と入電あり。Bさん宅へ急行。本人を保護する。連絡いただいた方に状況を再確認する。9時頃から周辺で待っていたのではないかとこのことであった。ちなみに、通常はこの曜日は利用日であったが、ケアマネより事前に発行の『当月（予定）提供票』上では、私用のために欠席と把握していた。至急、家族（長男）様に連絡確認を入れたところ、もとより欠席する予定はなく通常に利用する日だったことが判明した。

[対応]

Bさんを直ちに事業所にお連れし、バイタル等の健康チェックを行う。幸いにも精神面も含め大きな変化や混乱は見られなかった。担当ケアマネに連絡、本日の状況を説明する。併せて提供票の確認を行う。ケアマネが提供票上に欠席の旨を記載した際、誤って本日の日付欄に記載してあったことが判明する。当事業所もそれをそのまま受け入れ事故当日に至っていた。本人様には予定時刻までデイで過ごして頂いたが、心身面で大きな変化も見られず、家族様にもご本人のその後の状態と本日の事故の原因について説明報告を行う。

[再発防止に向けた対応]

今回のことについては、重大事故にも繋がりがけないケースであったと認識しており、当方の責任において、再発防止のための利用者の利用予定日確認の手順について再点検を行った。その結果、今回の事故の最大の原因は、『当月（予定）提供票』にある欠席等の情報の点検と確認作業に必要な、各方面へのコミュニケーションが不足していたと判断した。過去の経験からも厳重に取り組んできた確認作業であったが、更なる注意と丁寧な対応が必要であると担当者一同再認識した。今以上に、必要な情報の共有とその手段としての平素からのコミュニケーションに心がけていくことで再発の防止に努めていくよう確認を行った。

3) <ヒヤリハット対象事例>

*この期間での該当はありません。

3. 研修会および勉強会

[外部研修]

- ・1/17：業務継続計画作成セミナー「策定編」（オンラインセミナー） 参加人数1名
- ・1/19：業務継続計画作成セミナー「訓練編」（オンラインセミナー） 参加人数1名

[内部研修]

実施日	研修会・勉強会内容	参加者
令和6年1月	(開催なし)	—
令和6年2月3日	ケース検討 (事例配布のみ)	7名
令和6年3月6日	ケース検討	4名
令和6年4月4日	基本的な電話対応の仕方	5名
令和6年4月23日	高齢者虐待防止研修	5名

【集団指導】

- ①1/30～：令和5年度松江市第3回介護サービス事業者集団指導 [パワーポイント指導]
- ②3/8～：第4回集団指導 [パワーポイント指導]
- ③3/21～：第5回集団指導 [パワーポイント指導]
- ④3/28～：第6回集団指導 [パワーポイント指導]

4. ボランティア、福祉体験等受け入れ状況

*園芸ボランティア (大庭踊りクラブ5名様)：12月日曜デイ

5. 業務継続計画策定に関わる取組について

1) 策定内容

①感染症に係る業務継続計画

- a 平時からの備え：感染症情報の収集、体制の整備、感染防止に向けた取組、消毒液等の備蓄など
- b 初動対応：感染確認からの対応手順など
- c 感染拡大防止体制の確立：行政等との連携、濃厚接触者への対応、関係事業所との情報共有など

②災害に係る業務継続計画

- a 平常時の対応：建物や設備の安全対策、必要品の備蓄
- b 緊急時の対応：対応体制など
- c 家族、地域及び関連機関との連携：避難や救助支援の連携体制など

2) 策定委員会の設置

3) 研修について

- ・年1回実施：令和6年5月開催予定 (法人全体)

4) 訓練について

- ・年1回実施：令和6年5月開催予定 (法人全体)

5) 『健笑庵のぎ』の取り組み

- ・利用者や家族との連携体制の確保
- ：災害時の連絡手段のひとつとしてSNSの活用を提案し、文章にて協力依頼を行う。

6. 高齢者虐待防止の推進に関わる取組について

○虐待防止に関する基本的考え方

当事業所では、高齢者虐待は人権損害であり、犯罪行為という認識のもと、高齢者虐待防止法の理念に基づき、高齢者の尊厳の保持、人格の尊重を重視し、権利利益の擁護に資することを目的に高齢者虐待の防止とともに高齢者虐待の早期発見・早期対応に努め、「虐待の定義」に該当する行為を行わない。

1) 委員会の設置

2) 社内研修の開催：年1回以上

- ・令和6年4月26日 第1回研修会開催 タイトル「不適切ケアは虐待の始まり」

7. 令和6年度介護報酬改定に関わって

1) 地域密着型通所介護基本報酬の回知恵

- ・1回あたり：7時間以上8時間未満の場合
- ①要介護1：753単位 ②要介護2：890単位 ③要介護3：1032単位
- ④要介護4：1172単位 ⑤要介護5：1312単位

2) 取得加算の状況

①入浴介助加算 (Ⅱ)：55単位 (変更なし)

- ・算定要件：利用者の居宅における自立した入浴への取り組みを前提とした入浴介助を行う

②サービス提供体制強化加算 (Ⅰ)：22単位 (変更なし)

- ・算定要件：職員体制の状況（介護福祉士の配置等）
- ③処遇改善加算Ⅲ：総報酬単位数の8%
- ・算定要件：資格や勤続年数に応じた昇給の仕組みの整備

8. 報告に対する質問意見および要望

<意見・要望>

○活動報告に関わって

- ・ゲームやレクリエーションなど楽しみにしている。[利用者]
- ・食事が美味しい。[利用者]
- ・デイに行くのが楽しみ。前日から準備をして待っている。[利用者]
- ・義母はこの度、グループホームへの入居することになり、デイは終了となったが、利用している間はいつも楽しみにして参加していた。用事がある時以外は欠席もせず、日曜デイサービスにも全部参加していた。[利用者家族]
- ・相談事例に関わって、地域の方の気付きで助けられている事が多いと実感している。[地域代表]
- ・事故事例に関わって、ショートステイの利用や受診などで間際の予定変更でデイサービスを休む時など、ケアマネやデイサービスと連携を図ることが大切である。その上で、デイからは事前に休みの確認をしてくれるので助かった。[利用者家族]
- ・BCPに関わって、家族との連絡の方法として、災害時、仕事や用事をしていると携帯電話を所持していない事もあるので、SNS（LINE）を活用した連絡体制は本当に有難かった。[利用者家族]
- ・BCPに関わって、個々に避難計画が必要。地域で要介護者をどう支えるか課題が多い。[地域代表]
- ・BCPに関わって、今後の研修や訓練が必要であるが、災害を想定した訓練を行ったところ、避難する際に抵抗されるなど、やってみると色々な課題が出てきて大変だった、というグループホームの事例があった。[松江市]
- ・今年度の報酬改定に関わって、現状、介護従事者の人材確保と質の向上を図るためにも、処遇の改善が一つのポイントとされていることから、厚労省より加算取得の推進を求められている。[松江市]

<質問>

- ・Q：今年度の報酬改定において、利用者側の負担は具体的にどのぐらいの増えるのか知りたい。[利用者家族]
- A：各サービスにおいては、事業形態や加算取得によって違いがある。当事業所においては基本報酬や処遇改善加算の変更により負担割合1割負担の場合、1回のご利用につき3円から5円程度利用者負担が増えることになる。

※事業所確認欄

<input type="checkbox"/> 活動報告についての評価を受けることができたか。	○
<input type="checkbox"/> 要望・助言等受ける機会を設けたか。	○